

兵解協だより

兵庫県主催の「防災訓練」が平成28年11月13日実施されました。協会も初参加しました。

南海トラフ巨大地震による津波に備え、県は、兵庫県南部臨海部の15市町と初の「住民一斉避難訓練」を実施しました。AM9:00に「最大震度6強を観測」、防災行政無線などで地震発生を知らせる訓練放送が流されるとともに、15市町の住民に緊急速報メールを送信、その後大津波警報が発令された旨が送信され、避難訓練が開始された。各市町では一斉に高台等への避難が実施されました。区域内の住民は約26万人でしたが、実際に避難訓練した住民は、約3万人であったと報道されております。

その後、避難所の開設といった住民参加型訓練や防潮門扉の閉鎖さらには、消防、警察、自衛隊などによる、倒壊した建物から被災者を救出したり、洋上に漂流する被災者を海上保安庁が船舶やヘリコプターを使って救出したりする訓練が実施されました。そのほか、今回初めて情報収集に(ドローン)を活用し、上空から被災現場を撮影して地図を作成する訓練も行われました。

神戸市では、中央区の新港第2突堤に関係機関の約300人が集まり、市民約700人が訓練を見守りました。

訓練後、井戸敏三知事は「これだけの大規模な取り組みは初めてで、いざというときにどこに逃げるか、自分の命を守るためにどういう行動を起こすかということを考えるきっかけにしてほしい。」と話しておりました。さらに知事は、「実際に避難した人は3万人のかなりの数だが、対象者26万人からするとかなり少ない。訓練の規模や方法も含めて十分検証し、今後の訓練の積み重ねに生かしたい。」と語っていました。

このように今回の訓練は、住民の避難訓練が中心であったため、協会が参画する分野が少なかったが、来年度以降については、積極的に参画する事としております。会員の皆様方も訓練に積極的にご参加いただきますようお願い申し上げます。



指揮を執る久元神戸市長(中央)



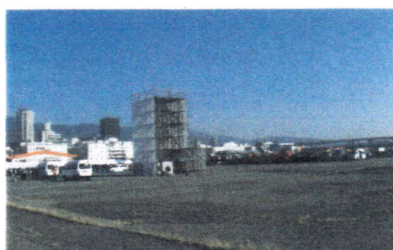
ドローンからの映像



倒壊建物からの救出訓練



道路通行障害の車の撤去訓練



訓練会場の全景



洋上漂流者の救出訓練